

舟車輪

平成16年2月 発行

(財)伏木富山港・海王丸財団
TEL 0766-82-5181
FAX 0766-82-5197

第87号

11～1月の行事について

帆走艦装工事

11月4日から24日にかけてステイ類のタール塗装(ブラックダウン)、及びマスト・ヤードの塗装が海事課監督のもと、業者の手により行われました。



足場の無いところではボースンチェアという吊り下げられたイスに座って塗装を行います。航海中にも作業を行うことができる非常にすぐれた道具です。



今年は塗装前の拭き取りがボランティア皆さんの協力で十分にでき、仕上がりは上々です。

より一層あざやかに became オレンジのマストを見に海王丸パークへお越し下さい。

ボランティアの集いについて

昨年12月6日(土)ボランティアの集いが「とやま自遊館」にて開催されました。ボランティア、来賓を含め約80名の方が参加され、歓談・ゲームなどを通し、親睦を深めました。今年は56名の方が精勤賞を受賞されました。次年度もよろしくお願ひします。

餅つき、鏡開き大会

昨年12月21日(日)餅つき大会が行われました。会場作りから準備を開始し、来場者にお餅や豚汁がふるまわれました。時折、小雨が降る状況のためか、例年より来場者数が鈍っていたようでしたが、来場者には楽しんでいただけました。

また、富山TVの「わが町の3大ニュース 新湊市編」の撮影もあり、皆さん恥ずかしそうに見えながらも楽しそうに出演しておられました。海王丸ボランティアを大きくアピールできたことと思います。



餅つき大会

また、今年1月11日(日)には鏡開き大会が行われ、来場者100名にぜんざいがふるまわれました。朝までの雪にもかかわらず、約40名のボランティアが参加されました。新年最初の顔合わせということもあり、笑い声が絶えませんでした。ご協力ありがとうございました。

2月に入りましたが、まだお会いしていない方々も多いと思いますので、改めてご挨拶致します。あけましておめでとございます(？) 本年もどうぞよろしくお願い致します。

さて、このコーナーにおきましては、皆様に海、船に関する知識の紹介をしてきたところですが、最近、難しくてつまらなくなつたという意見も寄せられました。自分自身でも堅苦しい感じがしていましたので、新年になった機会にイメージチェンジを図ろうと考え、このコーナーができた初心に戻って、皆様に情報を提供しようと思ひます。(とは言いながら、いつまた、難しい話に戻るかはわかりませんが・・・。その時は本人の性格の問題ですのであきらめてご容赦ください。)

そんなわけで新生第1弾は帆船の象徴でもある「船首像」についてご紹介することにします。



“紺青” “Konjō” (KAIWO MARU)

「帆船時代」がなかった日本には、当然のことながら帆船に関する我が国独自の伝説、伝承の類がほとんど存在していません。その点、西欧やアメリカなどには、幾世代かの間に語り継がれてきた「帆船物語」があるようです。その一つとして「船首像：フィギュアヘッド (Figurehead)」があります。

元来、船首像は、航海の安全を願って船の舳先(へさき)に取り付けられた彫刻で、蛇の頭など信仰の対象や魔力を持つものの姿をかたどったものでした。その歴史は古く、古代ギリシャ・ローマの商船やバイキング船にまで遡ります。しかし迷信から始まった船首像も、16世紀に入ると、富や

威信のシンボルへとその意味も変わり、次第に豪華で手の込んだものになり、18世紀中頃には、女優や皇太子、政治家など実在の人物まで登場するようになりました。

一方、17世紀までの帆船では、船首から突き出ている衝角(ラム)が敵船に突っ込むための武器だったため、相手を威嚇する意味もあって猛獣や戦士像が重宝がられましたが、18世紀以降は戦闘方式も変わった結果、船首に装飾を施すことが盛んになりました。

やがて19世紀半ば、大型で快速のクリッパー型帆船の全盛期になると、こうした船首像芸術は最も華麗で洗練された時代を迎えます。スマートなクリッパー型帆船には船首像が実によく似合いました。そこで各船主は、船首像の豪華さや美しさを競い合い、著名な彫刻家による作品も登場します。題材もカティサークに代表される女神像から、男神も含めた神像、騎士、婦人像、鷲などの動物像等、幅広いものがあります。

しかし、帆船から汽船の時代に移って、スピードや大量輸送能力、経済性を最重視する現代の船には、船首像のようなファッションを楽しむ余裕はもはやなく、特に舳先に突起部を持たない直立型船首が一斉を風靡するようになると、船首像は急速に歴史の舞台から消えていき、せいぜい船会社のマークぐらいがあればいい方です。

ちなみに、現代の自動車のボンネットの最先端やラジエーターにマスコットとして装飾が取り付けられているのは、この船首像からの名残です。

ところで、現在も初代日本丸と海王丸の船首にはコンパスマークと唐草模様の飾りがあって、白い船体に黄色く塗られたこの飾りは、外から見ると黄金色とも受け取れて非常に美しいものです。元々両船にはこの飾りのみで船首像がなかったため、日本丸の代替船建造を機会に、新しい日本丸と海王丸に船首像を送るうという運動が起りました。この運動は、練習船教育後援会により主催され、幅広い協力を得て国民的規模に広がりました。

船首像の制作には、全国から寄せられた2千点余りのデザインを基に、東京芸術大学・西大由教授と気鋭のチームがあたりました。「既成人物ではなく、創作された海の女性」という構想に基づいて、新しい日本丸には「藍青(らんじょう)」が取り付けられ、初代海王丸に取り付けられた「紺青(こんじょう)」は後に新しい海王丸に引き継がれました。「藍青」は気高く優しさのうちに凛々しさを秘めた日本女性を表しており、「紺青」は「藍青」の妹として、未だ少女のあどけなさを残し、典雅な気品を備えています。老若男女5万6千人以上の人々からの浄財の結晶であるこれら船首像は、それぞれの帆船の航海の安全と実習生・乗組員の幸を祈り続けています。

このように、船首像は乗組員にとって単なる装飾ではなく、心の支えとなるものであり、外から見る人々の心を強く引きつけ、友情の結ばれる原点ともなるものですし、船内の士気を高めるのにも大いに役立つものなのです。

2・3月の行事予定

海王丸進水記念日

2月14日は海王丸の進水記念日（誕生日）で、今年で74歳を迎えます。進水とは陸上で建造した船体を初めて水に浮かばせることです。当日はお祝いとして、満船飾を予定しています。（満船飾は天候により中止することがあります。）



また、この日はバレンタインデーでもありますので、海王丸では乗船者に特製チョコレートをプレゼントします。みんなで海王丸の誕生日を祝いましょう。

ボランティア研修について

本年度は平成13年度に引き続き、船内案内ボランティア研修を行います。この活動は平成14年度から総帆展帆日の昼休みに、既に研修を受けられたボランティアの方により実施されています。

ボランティア、見学者に対し海王丸への知識、理解を深め、海や船をより身近に感じてもらうとともに、海王丸ボランティアをPRすることが目的です。

日時： 2月14日(土) 22日(日)
午後1時～3時

集合場所： 海王丸第一教室

内容： 海王丸に関する説明
実施要領説明
案内時の注意事項など
14、22日とも同内容

今回新たに船内案内を希望される方だけでなく、海王丸をもっとよく知りたい方、また、前回参加された方もぜひお越し下さい。必要な持ち物はありません。

参加希望の方は同封の返信ハガキをご利用下さい。

ペンディングセイルについて

4月から始まる総帆展帆に向けて、セイルを取り付ける作業、「ペンディングセイル」を行います。大きな帆がどのようにして取り付けられるのか、海王丸への理解がより深まることと思います。

日時： 3月 6日(土)
3月 7日(日)
0830～1600（開始時間注意）

集合場所： 海王丸第一教室

作業内容： 各セイルの取り付け作業

持ち物： ・作業服一式
・タオル、軍手
・防寒に必要なもの

その他：
・参加希望の方は同封の返信ハガキをご利用下さい。
・天候により作業日時・内容を変更する場合があります。変更の場合、参加希望者には事前に連絡を行います。
・昼食（弁当）は財団で用意します。

お知らせ

練習帆船海王丸体験航海について

練習船教育後援会が実施する練習帆船海王丸の平成16年度体験航海スケジュールが決定しました。

体験航海とは、「海王丸」に乗船して将来の船長、機関長を目指し実習訓練を受けている実習生とともに、船内諸作業、航海当直等の訓練の一部や船内での生活を体験し、海や船に関する理解を深めていただくものです。当財団に資料、申込書がありますので、詳しくお知りになりたい方はご連絡下さい。

セイル作製状況について

横帆全18枚、スパンカーが上がり、現在ガフトップスルや救命艇のカバーを作製中です。残りは比較的小さい縦帆だけですので、数年後には真っ新な白い帆を羽ばたかせることができることでしょうか。セイル作製へのご参加お待ちしております。



危険予知トレーニング vol.4

前回86号 vol.3 の答え

1. Aはロープの端が暴れハネられ転倒する。
2. タグラインが急激に引っ張られ、持ちこたえられず放したタグラインがタグボートの乗組員に当たりケガをする。
3. Bはタグラインが急激に引っ張られたとき、引きずられボラードに激突する。

下のイラストにはどんな危険がひそんでいるでしょうか？考えてみましょう。

答えは次号で！



鍋一杯に入った熱いカレーを運んでいる。

(船員災害防止協会刊：商船KYTイラストシート集シート82より抜粋)

総帆展帆参加のお願い

平成15年度の総帆展帆に参加いただいたボランティアの方は全部で163名でした。現在登録されている方は479名です。

総帆展帆は皆さんの協力無しでは実施できません。それぞれご事情があることと存じますが、できる限りのご参加をお願いいたします。

また、住所、電話番号などの変更、作業服などの交換希望の方は返信ハガキを利用してお知らせ下さい。

書籍紹介

あるボランティアの方から小型船舶の海難に関する書籍について問い合わせがありましたので、ご紹介します。

- ・「海の安全ハンドブック - 小型船・漁船・プレジャーボート」 ¥1,748-
日本海難防止協会編集、成山堂
- ・小冊子「海難ゼロへのチェックポイント」
海上保安庁 各海上保安部
- ・「小型船舶操縦士学科教本2」
日本船舶職員養成協会 ¥1,029-

前号の訂正とお詫び

前回86号にて訂正がありました。精勤賞受賞者の白井孝雄さんが孝男さんになっていました。
(誤)白井孝男 (正)白井孝雄
お詫び申し上げます。

終わりに

2004年になり、海王丸パークも一面雪に覆われるようになりました。朝の日課として雪かきをする日が多くなり、心と体の鍛練と思ってがんばっています。私の周りでも、普段からジョギングや水泳、エアロバイクなど、皆さん健康づくりに取り組んでいます。最近ではスキー・スノーボードに行く機会が増えています。2月終わりにはボランティア有志によるスキーツアーが計画されており、私も参加して皆さんの知られざる一面を拝見しようと考えています。

(めんたつ)